OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

談　話　室

ある薙刀受講生の言

岸　純子

「やっぱり好奇心が先行しましたネ。剣道とか柔道とかは，体験はしてなくても一応どんなものか知ってるワケですヨ。薙刀となるとまず内容がわからないでしょ。長い棒みたいなものを使うってことは想像つきますけど剣道みたいに試合をするのか，基本技にはどんなものがあるのか……なんてネ。だから全然未知なるものへの興味は強かったですネ。」

「だけどそれだけでない事も確かなんです。なんていうか，やっぱり武道でしょ，だからそこに何かあるんじゃないか，例えば礼儀とか，厳しさとか……，適当なシゴキもあるだろうし……。かといってあんまりメチャクチャなシゴキは困るんですネ，だけど入門だからそんなにひどくはないだろうと思って……。」

「先生の役割ですか？　そう，ガイド，親切なガイドであってほしい。そして少し雰囲気がわかって来たら，一単位時をうまくプログラミングしてくれる人。そのプログラムにのっていけば半自主的な活動ができるような……，ここでは反復練習，ここでは新技術の習得っていうふうに。奥の方をチラチラのぞかせながら繰りかえしをしてくれたらグーなんですネ。」

「他のスポーツのばあいですか？　うーん，少し違うかもしれません。同じように未経験のものでも，あるていど馴れてくると遊べるんですヨ，あそべるようになるとネその技術をよりウマくなろうとか，もっと鍛練してやろうとかいう気持より，今自分のもっている体力とか器用性だけを以てその時間，如何に楽しく自分を存在させるかって気持になっちゃう。」

「だから先生は，ある程度の基本技術とルールを伝達してくれたら後はその一時間内をどうウオーミングアップし，どうグルーピングし，どういう組み合わせで試合をするか，その流れをスムースにしてくれる存在であってほしくなるんです。例えばラグビー，僕はラグビーやった事ないけどパスの仕方とかタックルとかあるでしょう。そういったもののやり方を覚えたら，ウマくなくても遊べるんですネ。ゲームができるっていう意味ですヨ。そりゃ集団技術や個人技術がウマくなれば試合そのものももっと面白くなるに違いないんですがそこまで求めないんですネ。たいてい先生はまず準備運動やって，柔軟かなんかやる。そしてその時間が何回目かというのによって集団技術のぬき出しみたいのや，個人技術のヴァリエーションをグループでやらせて，最後に１～２回試合をさせてくれる。それはそれでいいんです。その時やる技術練習は，よりゲームを面白くする為の研鑽とか，自分のグループをより強くするためでなく，それ自体が一つの遊びになるんで

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

す。だからあんまりムズカしいのでなく，その一時間のうち何十分か練習したらそれらしいカッコウになるものが提供されると楽しくなりますネ。だってそうでしょう，こういう授業で編成するチームはクラブのような強い結びつきはありません。次の時間には別の人と組む可能性が十分にあるんです。そういった一時的チームでされる技術練習，特に集団技術はあんまり試合はこびと結びつかないんじゃないですか？　だから今自分のもってるもので楽しんじゃおうってことになると思うんですが……。」

「別に僕は他のスポーツを否定して薙刀を選択したんじゃないんですョ。さっきいったように先生のリードにのって自分なりの遊びもまたそれなりの自己鍛練もできるし……。

半自主的ってさっきいいましたネ。適当なことばじゃない……。半抑制的っていうのかナ？　自分もウマくなりたいし，ウマクなることを期待した行動を先生に望むんです武道では。僕はですよ。だから手なおしっていうんですか？アレはビシビシやってほしいし。」

「え？　もう一度とるかですか？　うーん次の段階の内容が提供されるのならやってみたいです。クラブみたいなのを作ってまで一生懸命したいとは思わないけど，ある時間帯に場所と適当なリーダーがサービスされるなら少し続けてみたいような気もしますネ」

「礼儀作法？　昔はそんなものヤリキレなかったけど今は求めてます。年ですかネ」

以上は51年度前期保健体育実技薙刀を比較的情熱的に受講してくれた経済学部２年生の談である。皆が皆このような考え方をしているとは思えないが，一般の学生が「自身と体育」，「提供された体育の機会」をどうとらえているかあるていどうかがわれる。雑談の中からぬきだしたこの「談」に筆者はあえて考察も私見も加えまい。このまま放り出すだけで稿を求められた責を免れたい。

基礎数学談義

深　石　博　夫

甲　「数学教室で，基礎数学シリーズ（A，B，C，D）の授業を始めてから５年になる。学生達にも基礎が出来た頃じゃないかね」

乙　「いや，そんなに甘いものじゃありませんよ。むしろ，１年生の段階で数学を真面目にやるかやらないかの決心をせまる踏み絵になっているのです」

丙「それはよいことだよ。数学は自分で努力しなければわからないのだ――ということを教えるだけでもね」

乙　「現実に，本当に覚悟を決めて勉強している者は，何人いるのか。ほとんどの者は単位を取って卒業すればそれでいいのだ」

丙　「勉強しない者に単位を出すことはない」

乙　「そうとばかりは言い切れない。もっと，僕らの教え方を反省してみる必要はないか。どんな難かしい事でも，一度びわ